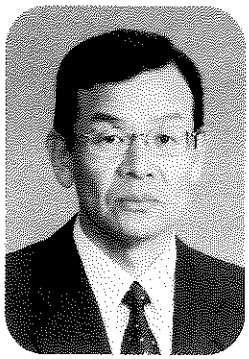
栃木県中学校長会報

第111号
発　行
平成22年２月８日
編　集
栃木県中学校長会広報部

今年度を振り返って



栃木県中学校長会長
宇都宮市立旭中学校長
清　水　昭　二

今年度も残すところ、あとわずかとなりました。年度末を控え、卒業式などに向け各学校とも準備を進めているところかと思います。

さて、今年度を振り返ると、各校とも新型インフルエンザ対応に振り回された年でなかったかと思います。５月に国内で初の発症が認められ、まず修学旅行への対応で大変苦慮しました。結果的には本県では中止の学校は無く、予定通り、又は延期して実施されました。修学旅行部を中心とした情報の収集と提供に感謝申し上げます。インフルエンザについては、夏休み明けの学校再開とともに発症が相次ぎ、休業の処置をとる学校が多発しました。このよう中で、私立入試が近づき「県私立中学高等学校連合会」に、校長会として申し入れを行いました。今後も、このような要望を必要があれば各方面へ行っていきたいと思います。

このほか、①教職員評価制度の本格実施、②主幹教諭制度の導入、③教員免許更新制講習の実施、④とちぎ未来開拓プログラムの発表など、教育関連の施策が次々に実施されました。このような状況で、各地区の会長さんはじめ会員の方々には会の活動のためにご尽力いただき、大変感謝申し上げます。

また一方では、22年度の「関東甲信越地区中学校長会研究協議会栃木大会」の準備の年でもありました。そのため、今年から関東地区校長会の事務局も本県が担っており、現在、県校長会の業務とともに、関地区校長会の業務、そして栃木大会の準備と３つの内容を同時に進めています。このような状況から、昨年の理事会で１年間討議した結果、本県校長会して初めて専任の事務局長を置くこととなりました。会員の皆様にはご負担をおかけしますが、これをきっかけに、よりスムーズな会の運営とともに、緊急の課題にも対応できる体制を作っていきたいと思いますのでご了解ください。

栃木大会については、今までの推進委員会から今年、実行委員会へと組織を再編し、９月にはプレ大会を開き、現在、各部を中心に準備を進めています。会場となるホテルとの打合せも終わり、大会での発表原稿も集まってきています。今後、大会が近づくにつれ細かな調整など多くの問題も出てきますが、実行委員会を中心に６月10日㈭・11日㈮の大会当日に向け準備を進めて行きたいと思います。

教育を取り巻く環境はますます厳しくなると思われます。このような中で、栃木大会に向けて、また本県教育環境の改善のためにも、県内会員が一つになって、全員でこの時期を乗り越えて行きたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局だより

平成21年５月15日㈮に県中学校長会総会が理事・代議員をもって開催され、平成21年度の運営方針・事業計画・予算案が決定し、それに基づき様々な会議や研修等が実施されているところです。

今年度は例年の事業に加え、10都県の関東甲信越地区中学校長会の事務局が栃木県中学校長会事務局に置かれ、栃木県の関地区理事・幹事・事務局員を中心に、各都県の分担金の徴収・関係書類の発送や関地区定例理事会（年３回）・事務局長会（年２回）・代表役員会等の企画・運営、関地区の実務の手引きの作成など、関東甲信越地区中学校長会の運営に携わっているところです。

更には、今年６月の栃木大会に向けて、総務部を中心に６つの部と連携しながら、関係書類等の作成・発送の業務が執行され、大会準備が予定通り進められております。

多くの会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

（事務局長　後藤　　明）

県教委との教育懇談会

広報部副部長　冨　田　恒　男
（上三川町立明治中学校長）

平成21年８月10日(月)、午後４時からホテルニューイタヤで「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催された。

初めに、中学校長会の清水昭二会長が両校長会を代表して挨拶をし、県教委（総勢25名）からは、古澤利通教育次長様からご挨拶をいただいた。

提案事項に入り、県小学校長会代表の越井文夫・宇都宮市立西が岡小学校長に引き続き、県中学校長会を代表して久保徹・宇都宮市立一条中学校長が説明を行った。

◎中学校提案事項

１　人的条件の整備

（教職員人材確保対策と教職員配置等の改善）

(1)　全学年35人学級及び少人数指導、指導法の工夫・改善等加配の継続・堅持

(2)　人事異動に関する校長の具申の尊重　※

(3)　本県教職員評価・管理職評価の簡略実施　※

(4)　主幹教諭等の導入による教員の加配

２　物的条件の整備

（教育諸条件の整備とその促進）

(1)　特別支援教育推進のための諸条件整備

(2)　各種大会使用の県立施設の費用負担軽減

(3)　中体連及び中文連助成金の維持継続

３　教育環境の充実

(1)　各種研修会・会議等の厳選と教員免許制度のスムーズな運用と受講者の負担軽減

(2)　総第１号指定研修指定に関わる教員の派遣

※は小学校長会との重複

これらの提案事項に対して、県教委側からは各担当者が一つ一つの事柄について、本県の現状や展望を示しながら、今後も財政の許す限り努力を惜しまないことや国への要望を鋭意努力していく旨の回答があり、有意義な教育懇談会となった。

県教委・県立高等学校長会との懇談会

進路対策部長　尾　﨑　　始
（佐野市立西中学校長）

平成21年10月26日(月)、とちぎ青少年センターにおいて、県教委、県立高等学校長会と公立中学校長会（正副会長、進路対策部員が出席）との懇談会が開かれました。提案事項は下記のとおりです。

１　一日体験学習について

(1)　普通科の体験内容を検討してほしい。

(2)　参加申込後に地域（地理的位置）を考えた割り振りをしてほしい。

(3)　メールでの申込みを可能にしてほしい。

２　入学者選抜方法について

(1)　今後も調査書を重視してほしい。

(2)　普通科の推薦入試は基準を明確にし、多様な推薦の形を考えてほしい。

３　募集方法について

(1)　受付事務を昼休みにも実施してほしい。

(2)　出願変更最終日の〆切を16時30分に延長してほしい。

４　その他の提案事項

(1)　受検料納入は収入証紙でなく銀行や郵便局等の振り込みにしてほしい。

(2)　高校入学者選抜実施細則説明会の実施時期、ホームページ上への掲載時期を早めてほしい。

(3)　合格者発表をホームページ上でもしてほしい。

(4)　調査書を公立、私立とも同じ形式にし事務の簡素化を図れるようにしてほしい。

以上の提案事項について懇談した結果、１の(3)、４の(3)の一日体験学習の申し込みや合格者発表等については、各学校ごとにメールでも可能になるよう検討するとの回答を得ました。

また、例年提案してきた３の(1)の入試に関する高校側の受付事務については、昼休みの時間帯も受付を実施するとの報告がありました。

なお、他の提案事項についても真摯な回答をいただきましたが現行どおりとの回答でした。今後も県教委、県立高等学校長会と公立中学校長会の意見交換を継続していきたいと考えています。

地区校長会だより

河内地区上三川町中学校長会

伝統文化を生かした教育活動の推進

河内地区校長会は、県央に位置し、以前は４町であったが、市町合併により現在は上三川町単独（３中学校）の会となった。しかし、従来から宇都宮市校長会との連携が盛んであり、現在も互いに良好な関係を保ちながら事業や教育活動を展開している。

本地区は、県都宇都宮市に南接し、商店街が中心の上三川中地区、農村部と新興住宅団地が両存する本郷中・明治中地区の３地区で構成されており、従来の日産を中心の生活から、近年、北部に大型ショッピングモールができるなど商業化が進んでおり、県内で最も人口増加率の高い地区となっている。

研修会は、町定例校長会終了後に定期的に行い、不定期にも随時開催し、情報交換や研修テーマ等を受けた研修を深めている。ここ３年間は10月に全中福島大会で発表した標記研究テーマの研修を進めてきた。具体的には、従来から展開してきた活動で伝統文化と関連が深いものの洗い出しから始めた。

各校とも従来から伝統文化に関連した地域の教育力導入には積極的であったため、本郷中は「神楽鑑賞とお囃子体験」、上三川中は「茶道」、明治中は「ふくべ細工制作」をそれぞれ総合的な学習の時間へ組み込みながら継続研究を進め、大会の発表へと繋いでいった。

特に、上三川中の「茶道」は、修学旅行の献茶や京都市内中学生との交流茶会、卒業式に茶道を入れた「和の卒業式」等、「人格の陶冶（人間性を高めること）」をめざした活動が高く評価されている。

このように、本地区校長会は、平成19年度に宇都宮市で開催した県中文連文化祭開催を契機として、伝統文化を大切にする心が生徒達の中に醸成できるように地道な努力を続けてきた。

そして、今後の本地区研究の方向性は、伝統文化を大切にしながら、「心豊かで、さらに高い学力を有した生徒」の育成に大きくシフトしていくことと思われる。

［上三川町立上三川中学校長　戸倉　文夫］

芳賀地区中学校長会

「小中連携英語活動・英語科推進事業」

小学生の外国語活動が正式に位置づけられ、小学校の教員にも英語活動を展開する上での指導技術を身につけることが重要な課題となっています。

中村中学校区には４つの小学校があり、すべてが中村中学校に進学します。進学する際に感じる不安や違和感（中１ギャップ）を解消し、円滑な中学校生活への接続を行うために、英語教育を媒体として小・中学校の教職員が連携・協働して研究に取り組むことで、小・中学校の相互の理解を深め、９年間を見通した多角的な小中連携教育のあり方を研究しています。

１　研究の目標

(1)　小中連携英語教育の実践による児童・生徒の英語でのコミュニケーション能力の向上

(2)　小学校における英語活動担当者の資質の向上と授業の改善

(3)　中学校への円滑な接続（中１ギャップ解消）のための小・中学校教員の連携・協働による効果的な教育活動の展開

２　取り組み

(1)　小学校英語活動支援員の配置やＡＥＴの計画的な訪問体制の整備

(2)　小中連携教育の企画・実践・検証

(3)　望ましい小中連携のあり方の企画・実践・検証

３　昨年度の成果

(1)　年度はじめに立てた目標のほぼすべてを達成することができた。

(2)　中村地区の活動が、市内全小学校が英語活動を実施する際のモデルとなった。

(3)　小中連携英語活動を開始することができた。

４　昨年度の課題

(1)　他校との情報交換の方法（市内への発信）

(2)　小中連携のより積極的な実践

５　本年度の計画と活動の重点

(1)　小中連携を意識した中学１年生の年間計画の作成を開始する。

(2)　各学校が昨年度の成果を発展させ、各学校独自の研究を進める。

(3)　市内全小・中学校の先生方に英語活動の授業を公開する。

(4)　小学校中学年の英語活動支援員との授業を検証する。

(5)　中学校の先生方が自分の教科の小学校の授業を参観する。

(6)　小学校英語活動の発表を中学校で行う。

７月に中村中学校の姉妹校がアメリカより訪問した際、歓迎式典の中で４小学校の６年生が英語での歓迎パフォーマンス（ハローソング、フォニクス・アルファベットソング、レインボウ、英会話たいそう、グッバイソング等）を披露し、喝采を浴びました。

研究３年目になる次年度には、さらに小中連携英語活動の完全実施、そして望ましい小中連携のあり方の企画・実践・検証をしていこうと思います。

［真岡市立中村中学校長　山本　克巳］

南那須地区中学校長会

南那須地区は、県北東部に位置し、豊かな自然に恵まれ今なお地域の一体感が残る山間地にあります。以前は４町でしたが、市町村合併により、現在は那須烏山市、那珂川町の１市１町となりました。小中学校の統廃合も進み、本会は、６校で構成されています。統廃合してもどの学校も、小・中規模校（100～400人程度）です。

本会は、年間４回開催し、校長の資質の向上や情報交換、共通理解等を深めています。毎回議題としている内容は、下記の３つです。

＊栃木大会に向けた研修
＊各部会からの報告
＊各学校における諸問題

６人と少人数であるために、何事にも一緒になって考え取り組んでいます。平成20年度は関ブロ千葉大会で発表、今年度は関東甲信越地区中学校長会第62回研究協議会栃木大会での原稿作成に向けて最終段階に入っているところです。

また、議題の中で「各学校における諸問題」は、大変有意義な時間です。５月の研修では、部活動での課題、不登校生徒への対応、給食費未納者への対応等の悩みがでました。７月の研修では、新型インフルエンザへの対応、事件事故のない夏休みへの手だて等です。他校の悩みを自校の悩みとして話し合っています。本会での一番の研修となっています。

次に、本会と関わりの深い会議や研修を紹介します。

＊地区中高連絡会…年３回実施

１回目は、高等学校へ入学した新入生の様子について。２回目は、生徒指導主事による生徒指導上の課題について。３回目は、進学を中心にした進路指導に関する情報交換です。

＊地区小中学校長会…年３回

１回目は、総会。２回目は、班別研修による情報交換、３回目は、講演会です。

＊幼小中高校一貫教育研究協議会…年１回

幼・小・中・高等学校で研究授業を展開し、自分の所属している以外の学校を参観します。幼・小・中・高の先生方がまじっての情報交換も行っています。

今後とも、小さい地区だからこそできる良さを生かし、創意工夫して誇れる中学校を目指していきたいと考えています。

［那珂川町立馬頭中学校長　堀江　真樹］

私の学校経営

日光市立川俣中学校長　枝　敏充

児童生徒の数が小学生５名、中学生２名と極めて少ない本校は、県内でも数校しかない小中併設校である。

２年前赴任するにあたり、この“小中併設”“極少人数”という特色を生かし、一つの学校として学校経営を進めていこうと考えた。

１年目は、川俣小中学校は“川俣校”として一つの学校であるという校長の考えを、機会あるごとに職員に伝え、朝の職員打ち合わせや児童・生徒指導に関わる情報交換会は小中一緒に行う、小中教員の授業交流を積極的に行う等、校内の動きを少しずつ変えていった。そして、２年目は、“川俣校の情報教育”“川俣校の人権教育”というように、一つの学校という視点から公務分掌の見直しを行った。

写真は、学校祭でのミュージカルのフィナーレの様子である。小学生と中学生、そこに小中の教員が加わり、演じ、演奏する。子ども達と教員が一つの学校を実感する行事の一つである。こうした行事にも、小さなパートを校長ももらって参加し、一つの学校であるという学校経営の方針を職員に伝えていくことにも努めた。

「小学校と中学校の生徒の仲がいいですね。」
「学校が一つになっているね。」

こうした保護者や地域の方からの声を聞くたび、一つの学校として進めてきた学校経営が、信頼される学校づくりにも結びついていることを感じる。

この他、山間地に位置する豊かな自然環境なども学校の特色として経営の柱の一つに位置づけている。

山間地の小さな小さな学校での経営ではあるが、学校の特色をしっかり捉え、それを経営に積極的に生かしていこうとする校長の姿勢の大切さを学ぶことができた。

地域の教育力を活かして

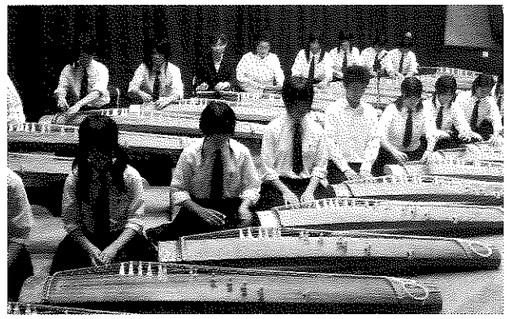
小山市立小山第二中学校長　三　澤　庸　助

本校は、ＪＲ小山駅から南西に1.5kmの市街地に位置している。昭和62年度末に、小山城南中が分離し、大規模校から中規模校となった。現在、普通学級９、特支学級２、生徒数272名、教職員総数28名の家庭的な雰囲気をもつ学校である。また本校には、小山市不登校適応教室が併設されており、学校生活に適応することが困難な生徒を対象とした指導も進められている。

さて、本校では数年前より、いくつかの分野に外部講師をお招きして、地域の教育力を活かした活動を展開している。その中でも「わが校ならでは」の取り組みが、音楽教育における「箏」の学習である。この学習には、学区内在住の「箏」の先生が、長年にわたり指導に携わって下さっている。

本校教育目標の一つに「心豊かで　思いやりのある生徒」の育成が謳われている。「箏」の学習をとおして、日本音楽の持つ精神性と美しさを理解すると共に、日本人が失いつつある文化を理解し、誇りを持つことは、まさにこの教育目標の実現に向けたひとつの取り組みであると考えている。

今年度10月には、関東音楽教育研究大会栃木大会が行われ、研究演奏の部で、選択音楽履修の生徒が「さくら幻想曲」を披露してくれた。日本人の誇りを失いつつある今、「箏」の音色はそれを蘇えらせてくれるように感じるのは単なる幻想だろうか。



「互いに励まし合い、困難を乗り越えられる生徒の育成」

～生徒の悩みや願いを語り合える教師～

足利市立愛宕台中学校長　栗　原　と　み

１　はじめに

本校は、市の人権教育の指定を受け昨年度までの３年間上記の研究主題、副主題に実践的な研究を日常的に推進してきました。もちろん今年も生徒の心の中に生きる教師を目指してみんなで、ていねいに、一歩一歩実践を積み上げています。

一人ひとりの生徒に着目し、具体的なかかわりを通じて不安や悩み、思いや願いを把握し、教師と生徒と保護者との三者で支え合う関係づくりを当面の課題として推進しています。

２　実践内容

(1)　教職員と生徒の実態調査の比較
(2)　授業、日常生活におけるチェックポイントにそって生徒の良い点をメモする。
(3)　情報交換をしその後の学級経営、学習指導、生徒指導等に生かしていく。
(4)　気づき賞により、教師の生徒を見る目を養う。
(5)　保護者啓発…人権教育だより、学年だより、家庭訪問、人権作文でのコメント、被差別部落出身の保護者との語り合い等

日常生活におけるチェックポイント

時　間	視点	チェック内容	評価
朝	①⑮	・生徒の登校時に教室環境の確認をしているか。	
	①	・あいさつの様子、表情などを観察しているか。	
	①	・一人一人を呼名し、健康観察と共に様子を察知できたか。	
休み時間	②③⑦	・気になる生徒の情報交換ができたか。	
	①	・生徒と接するときに声をかけているか。（特に一人でいる生徒に対する声かけをしているか）	
	②⑨	・生活ノート（ライフ）の点検、コメントの記入をしているか。	
給　食	①	・協力しながらやっているか、分担が偏っていないかを観察できたか。	
	①	・会話をしたり、話題を提供したりして、生徒同士・生徒と教師間での人間関係づくりに努められたか。	
昼休み	①	・生徒と共に過ごし、触れ合おうとしているか。	
清　掃	①	・共に働きながら、子どもの様子の観察・声かけをしているか。	
帰　り	①	・子どもの様子や表情を観察できたか。	
部活動	⑭	・部活動への取組みや人間関係の様子を観察しているか。	
随　時	⑨	・「気づき賞」を通して、一人一人の良い面を把握しようとしているか。	

新任校長の一言

雑　感

壬生町立南犬飼中学校長　鈴　木　　孝

4月に赴任以来、有能な教職員と素直な生徒に恵まれ、大過なく一年が終わろうとしています。下都賀地区小中学校での体験がない私にとって、地域性や地理的特色等戸惑うことがありますが、他校の校長先生のご支援をいただき、学校経営もスムーズに進んでいます。

さて、本校は下都賀地区最北端で、獨協医科大学病院北200Mに位置し、かつては、おもちゃ団地を抱え、生徒数900名を数える大規模校でした。当時から、部活動がさかんで、野球、サッカー、ハンドボール等、県制覇をしておりました。

しかしながら、赴任した時には、県大会出場が目標となるような状況でした。私の学校イメージからは想像もつかない状況でしたので、強い犬飼中復活を目指すことを教職員・生徒・保護者に伝えました。有言実行で、毎日、各部の練習を順次参観し、生徒に声をかけました。また、顧問には、現在の実力のレベル（地区内でのランキング）、目指していること等について、話を聞きました。

春の大会は県大会出場は卓球部のみで、正直がっかりしました。このままではと思い、総体前に、顧問を集めて飲み会をやりました。そこで、各顧問の決意表明を依頼しました。結果は、野球・卓球・バレー・バスケットボールの県大会出場が実現しました。県大会では、野球部が3位と健闘、県少年野球では準優勝しました。

秋の新人戦では、サッカー・剣道・バレーの各部県大会出場（バスケットボールは3位ながら、出場権なし）でした。

念ずれは通ずのたとえどおり、全体的な底上げが図れたと思っています。

学校の役割

那須塩原市立塩原中学校長　橋　本　　彰

塩原中は、私が新任教員として6年間お世話になった学校である。あの時から20年、今回は新任校長として塩原中に着任した。

当時の塩原は、まだ尾頭トンネルが開通しておらず、隣村の三依地区には、日塩もみじラインを越えて鬼怒川回りで2時間近くかけて行ったものだ。それが今は、ものの10分程度で三依に着いてしまう。

20年の時の流れ。当時、全校生200名だったのが、今は、47名。ウィンタースポーツといえば、アルペン、ノルディックとも常に県を制し全中出場常連校であった。現在は、スキー競技をやっている生徒もほとんどいない。唯一変わっていないものは、地元の人たちの人情味と木の葉化石園に向かうトテ馬車の心地よい蹄の響きと馬の鳴き声である。

4月末、本校会場で32回目を迎える湯けむりマラソンが渋井陽子選手を招待し開催された。当時、このマラソン大会のスタート地点には、100メートルに渡り地元の芸者さんが和服を着て走路を埋め尽くし扇子を翳して華やかに声援を送っていたものだ。この芸者さんも今は一人もいない。

5月末、生徒の減少に伴い、今年初めて小学校との合同体育祭が本校会場で実施された。これは昨年から計画されてきたものだが、天気もさることながら老いも若きも素晴らしい歓喜の声と笑顔、達成感を残し記念すべき第1回小中合同体育祭を終了することができた。本校学区には、上塩原小学校と塩原小学校が5年前まであったが、黒磯市、西那須野町、塩原町の1市2町の合併もあり、統廃合され塩原小学校ひとつになってしまった。上塩原小学校は、山村留学など特色のある活動を積極的に取り組んでいたが、現在は、メープルという不登校児童生徒対応の施設に生まれ変わり成果を上げている。地元の人たちは小学生の元気な声が聞こえなくなって寂しいと嘆いていた。だが、今回の体育祭で元気な声が蘇ったことで、お年寄り達は、「児童生徒らから元気を貰えた。また来年も楽しみにしているよ。」と笑顔で帰られた。

学校が元気になれば街（地域）も元気になる。5月に、全校生でヒマワリの種を蒔いた。一つのポットに3粒ずつ。合計720ポット。今年の夏、塩原の街中で開花した。マイチャレでお世話になった事業所には、プランターで咲かせたヒマワリを配布した。「元気発信ＦＲＯＭ塩原中」のステッカーを貼って。